

**ICYE ジャパン 2020年5月**

**Newsletter Vol.177**



## 目次

【失敗して失敗してなんども挑戦して】 事務局長より	1
現地からお届け！～長期派遣生より～	
吉荒 零 さん（コスタリカ）	2
田尻 昌浩 さん（フィンランド）	3
民本 彩華 さん（デンマーク）	3～4
事務局だより	
インターン生卒業	5
オンライン交流会	
新型コロナウイルスのICYE対応について	
編集後記	6

## 【失敗して失敗してなんども挑戦して】

4pのデンマーク派遣生の言葉

“何度も何度も挑戦して、毎日たくさん失敗をします。それでも諦めずに継続する。できない自分に恥ずかしくなったり、悔しくなったり、悲しくなることもあります。でも、その感情があるからこそ、継続した先に《嬉しさ》と《変化》があります。”

これを読んでいるリターニーの方々も心当たりがある体験だと思います。異なる文化、慣れない生活、言葉の壁、日本人は自分たった一人、自分はここで役に立っているのだろうかという不安。そのような環境の中で、果敢に挑んでみるものの、なかなかヒットは出ない、ましてやホームランなんて夢のまた夢。なんでそんなに大変なことをしてまで海外で「ボランティア」をするのか、それは、ヒットを打つことが最終地点なのではなく、方法を模索し試行錯誤し続けること、その過程にこそ「価値」を見出しているのがICYEプログラムだからなのだと思います。

私の文化、私の生活、私の経験、私の価値観、今まで培って来たものが通用せず、派遣先では無力に思える瞬間も多々。一度作り上げたものを壊すことは、培ったものが多ければ多いほど怖いもの、壊しては新しい部品を加えて作り直し、また壊してはまた新しい部品を加えてみる。試行錯誤の連続の中でより強く、より確かな芯が作られていくのでしょね。

その繰り返しの中で、はたと気付くと一番大切な基礎の部分には、今まで埋もれていた元来自分が持っていた素敵な部分がキラッと輝いてたりするもんなんだろうな。

【事務局長 又吉 莉奈】

現地からお届け！

～長期派遣生より～

吉荒零さん 派遣先：コスタリカ  
2020年1月～派遣中！

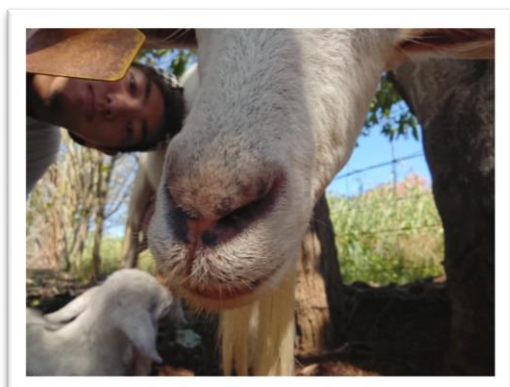
### 「ホストファミリーを過ごす毎日」

Hola.Han pasado 3 meses desde que vine a Costa Rica.

コスタリカは中米に位置する自然の楽園です。綺麗な動植物、軍隊のない平和な国柄、そして笑顔の絶えないコスタリカ人と共に充実した日々を過ごしています。

私のボランティア先は high school で、その動物たちのお世話をしています。

しかし、コロナウイルスの影響で現在は自宅での自粛期間が続いています。基本的に家族以外とは会えませんが、そのような状況下の中で何ができるのかを考えながら生活しています。私は幸いホームステイでの生活なのでホストファミリーと生活することができています。



彼らと過ごす時間が長くなり、より家族の大切さについて考えることができるようになりました。また、この期間で時間が沢山あるからこそ、改めて自分を見つめ直す機会を作ることができ、いま自分がしたいこと、学びたいことについて考えることで、そのことに尽力することもできています。またスペイン語を話すことはとても楽しいです分からないことだらけですがその状況すらも楽しめたり、わかった時の喜びは何にも替えがたいものがあります。今は会えていない学校の友達とまた

スペイン語で話せる日々を心待ちにしていますし、そのために今はスペイン語に触れる毎日を送っています。

田尻昌浩 派遣先：フィンランド  
2019年8月～派遣中！

### 「生活の変化」

コロナウイルス感染拡大により多くの施設が閉鎖されていますが、生活に支障はなくボランティア先の幼稚園で今まで通り活動することができます。最近公園から海を眺めたり、ホストファミリーと散歩や森の中でかくれんぼなどして大自然を満喫しています。コロナウイルスによってこのような状況になっていなかったらたくさんの自然と触れ合うことはなかっただろうからこれはこれで良い時間の過ごし方だと思っています。しかしコロナウイルス感染者数は増すばかりなので移らないように、移さないように気をつけます。



民本彩華さん 派遣先：デンマーク  
2019年8月～派遣中！

### 【不安だったけど払拭できたこと】

こんにちは。私は1年間の長期派遣のプログラムをデンマークで行っています。今回は不安だったけど払拭できたことについて書いていきたいと思います。私は言語の面で、「コミュニケーションがとれるか？」が不安でした。しかし、デンマークでの日常の中に、自分が不安に感じていたことが払拭されるヒントがありました。

それは、

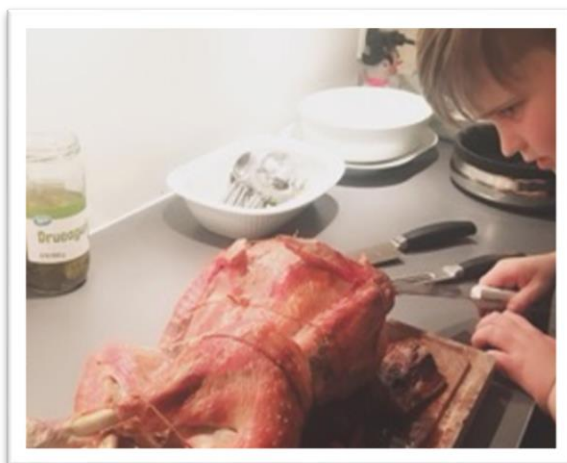
【「できない」から「あきらめる」のではなく、「できる」方法を考えればよい！】







写真は日常の一部ですが、デンマークの人は課題に直面した際に新しいアイデアを用いて、プロセスを楽しみながら、その事柄を解決に導いたり、目的を達成させるのが本当に上手くて、毎回、斬新なアイデアと創造力に感動します。その姿を毎日見ている言語やコミュニケーションにおいても同じだと思いました。今までは英語やデンマーク語が話せないことで会話や生活不安だと思っていたけれど、伝える手法を工夫することで相手とコミュニケーションは取れるし、理解することもできるようになりました。



何度も何度も挑戦して、毎日たくさん失敗をします。それでも諦めずに継続する。できない自分に恥ずかしくなったり、悔しくなったり、悲しくなることもあります。でも、その感情があるからこそ、継続した先に《嬉しさ》と《変化》があります。一人では解決できなくても、自分以外の人を持つアイデアや個性が、悩みや課題の道を開くきっかけにつながったりもします。人は、一人ではなく、あらゆる人と時間を共にすることで次の成長への1歩につながることを改めて体験することができました。その度に自分も自分以外の人もより尊い存在と思えます。

8カ月が経ち、【人は一人ではなく、あらゆる人と時間を共にすることで次の成長への1歩につながる】を改めて体験することができました。

## 事務局だより



リモートでの活動になった4月から現在ですが、インターン生の卒業・交流会イベント等がありました♪

こんにちは！インターンの佐藤希帆と申します。私はこの6月でインターンとしての活動は終了することになりました。そこで、私がこれまでICYEでの体験について少しお伝えできればと思います。

私は去年の10月からインターンとして働かせていただいていたのですが、その間ただ大学に通っているだけでは絶対に得られないものを体験させてもらえました。その中でも特に印象に残っているのは、職員の方のプロ意識です。ICYEの本部はドイツにあり、世界各国からの受け入れに加えて日本からの派遣もしています。つまり業務の範囲がとても国際的です。そんな中お互いを尊重し合うため、日本はもちろん他国の現状や文化に関して、半端ではない程の知識を持ち、また問題意識も高く、常にアンテナを張って生活をしていると感じました。例えばコンビニで買い物をしたとき、皆さんはビニール袋をもらいますか？アンケートに答える時、性別の欄に男と女しかなかったとしたら違和感がありますか？遠い国で起きた紛争や銃乱射事件の背景を想像できますか？これらのことは1人の行動とすると些細なことに感じるかも知れませんが、それを「プロ」として回りに影響を与えながら道を切り開いていくような人を見ました。

私はこの、周りに影響を与えるということがどれほど難しいか知っています。

「出る杭は打たれる」という言葉がありますが、意識が高いねと、ついて行けないと、周りに嫌煙されるかも知れない。でもそれを巻き込んで引っ張っていってしまうほどの熱意。私の人生にも大きく影響を与えてくれたと思います。



ICYEを通して私に関わってくださった方々、8ヶ月間ありがとうございました。

(佐藤希帆)



みんなでラストミーティング！涙きほさん、今までありがとうございました。

### 【初！オンライン交流会開催！】

5月23日昼、コスタリカ現地派遣生の吉荒零さん(P2)、デンマーク帰国生の赤松加寿代さん・ウガンダ帰国生の北川野々子さんをお迎えして、ICYEジャパン初となるオンライン交流会を開催しました！質疑応答や写真を交えながら、海外ボランティアに参加した理由、現地の様子や生活について、お話を伺いました。オンライン開催ということもあり、熊本や佐賀といった遠方からの方も含め、30名を超える皆さんにご参加いただきました！『言葉が通じなくても、コミュニケーションはとれる。』『裕福と幸せはイコールじゃないと感じた。』『現地では“あなたの心に従ってすすみなさい”と言われた。』等、海外での生活した（している）皆さんだからこそ感じられたことを共有していただきました。3人が口を揃えて言っていたのは『この経験はこれからの生活の中に財産として生きてくる。』ということ。飲み水は購入していたウガンダから帰国後、野々子さんは飲める水が水道から出て流れていくのを「もったいない」と感じたそうです。

夕方には、これからの派遣生向けにフィンランド派遣生の田尻昌弘さん(P3)デンマーク派遣生民本彩華さん(P3.-4)とオンラインで交流会を開催しました。海外で生活するにあたってより具体的な質問（服は現地調達？携帯電話は？等）に回答いただき日本との違い（マスクはしない、傘はささないからフード付き服が必須等）に驚くがたくさんの交流会となりました。

参加者の方からは「貴重な話を聞いて楽しかった。」「海外ボランティアに向けて行動したい。」等嬉しい言葉をいただきました。コロナ禍で気持ちも内にももりがちな最近でしたが、オンラインでどこまでも繋がれる！と海の向こう側へ思いを馳せるいい機会となりました♪(A)

昼の部参加の皆さんと  
感想を添えて記念撮影☆→



### 【新型コロナウイルスのICYE対応について】

世界中で感染が拡大し、多方面で私たちの生活に影響を与えている新型コロナウイルス感染拡大防止措置として、ICYE日本委員会（ICYEJAPAN）は4月初めから事務所を閉鎖し、スタッフ、インターン共に在宅にて勤務を続けてきましたが、6月からは段階的に事務所での作業を再開させていきます。6月の説明会はオンラインのみ実施いたしますが、7月以降に関してはまた状況を見て決定していきます。引き続き、ICYE連盟全体でも各国の情報を共有しつつ、各国でボランティア生の健康と安全が保たれるよう全力で取り組んでまいります。

5月は前代未聞の全てオンラインでの活動となりました。みんなそれぞれ楽しみながら活動しておりますが、会えない寂しさは慣れるものではないですね。早く日常が戻って来てくれることを祈るばかりです。現段階では緊急事態が解除され、7月から事務所での活動を予定していますが、まだまだ余談を許さない状態です。しかし世間はだんだんとウイルスの脅威を忘れつつあるように感じます。第二、第三の感染爆発が起きないように今一度みんなで団結して、このパンデミックを乗り越えましょう。  
(5/30インターン Tommy)



発行元

特定非営利活動法人 国際文化青年交換連盟日本委員会 (ICYE ジャパン)  
〒169-0074 東京都新宿区北新宿 1-7-21 高澤ビル 901



**ICYE JAPAN**  
International Cultural Youth Exchange

Tel / Fax 03-5389-5041

E-mail [office@icye-japan.com](mailto:office@icye-japan.com)

HP <http://www.icye-japan.com>

Facebook: [icyejapan](https://www.facebook.com/icyejapan)

Twitter: [@icyejapan](https://twitter.com/icyejapan)

Instagram: [icyejapan](https://www.instagram.com/icyejapan)

